東北交流登山報告書(1日目)		山	名	栗駒山	天 気	气	曇り時々晴れ一時雨
		山	域	宮城県		×ı	
山行期間	2011年10月8日(土)	ル	<b>−</b>	イワカガミ平~栗駒山~東栗駒山~イワカガミ平			
参加者名	CL S.NARITA 他5名						

## 登山口までのアプローチ

あおもりIC 5:00 ⇒ 岩手山SA(朝食) 6:20~6:30 ⇒ 若柳金城IC 7:50 ⇒ いこいの村『栗駒』 8:25~ 8:45 ⇒ シャトルバス(無料) ⇒ イワカガミ平 8:52

## コースタイム

イワカガミ平 9:00 · · · · · 小ピーク 9:55 · · · · · 栗駒山山頂(昼食) 10:35~11:00 · · · · · 東栗駒山 12:00 · · · · · イワカガミ平 13:15 ~ 13:30 《シャトルバス》⇒いこいの村『栗駒』

## 山行記録

『東北の労山会員が紅葉の蔵王に集い、震災を吹き飛ばす団結登山交流集会を行うことで元気を取り戻し、登山活動の足がかりを着実なものにしたいと思っています・・・』との呼びかけで開催された『3. 11 東日本大震災に負けてたまるか! 労山東北ブロック団結登山交流集会 in 宮城蔵王』に参加。「集合場所には夕方までに着けばいいから、その前に栗駒山に登っていこう。」というCL Nさんの提案に、皆、大喜びで賛成した。

夜明け前、まだオリオンが瞬いている青森を出発。渋滞にも捉まらずに車は予定より速いペースで走行し、宮城県側栗駒登山口まであと少しという所まで来た。「紅葉真っ最中のしかもいい天気の日に、こったらにスムーズに来ていいんだべが・・・。」と話していたら、やっぱり一歩手前で停められました。登山口のイワカガミ平駐車場が満車なので、車は少し下の〈いこいの村栗駒〉に置き、シャトルバスで往復との事。けれど、バスはわりに短い間隔で発車し、しかも無料。とても良心的で気持ちの良い対応だった。

イワカガミ平から上り中央コース(3.2km),下り東栗駒コース(3.9km)で周回した。中央コースは頂上まで一番短く、しかもコンクリートなどで整備されているので、観光客風の人も多く、三脚をかついだカメラマンにも沢山すれ違った。少し歩くと雨がぱらつき始め、雨具をつけた。着ると暑いし脱ぐと濡れる。どうしようか迷っているうちに雨も止み、辺りがぱあっと開けて、錦織なす紅葉の大パノラマが広がった。小ピーク到着だ。栗駒山のどっしりとした姿と山頂に続くのびやかな登山道、『宮城県の山』の表紙をも飾っている今が盛りの紅葉。見事な光景に圧倒され、それぞれにお気に入りのスポットでシャッターをきった。そこからは雄大な景色を楽しみながら緩やかに進み、急な階段を上って山頂へ。広くもない頂上は須川側からも続々と登山客が訪れて大賑わい。山頂標柱前での記念撮影は列を作って

さっき上ってきた急な階段を降り、分岐地点まで来たとき、東栗駒コースを上ってきた岩手労山の方々に会った。

の順番待ちだった。止まっていると肌寒くなり、風をよけて昼食を済ませて早々にT^

「すごいぬかるみだよ。」との事だったが、とにかく行ってみることにした。 栗駒草原に差し掛かった頃から情報どおり、南八甲田に勝るとも劣らない苗代状態の道が始まった。少し上って溶岩がゴロゴロある尾根を通って、東栗駒山頂に到着。ここからの栗駒山の眺めも素晴しかった。 尾根道は乾いていて歩きやすかったが、又しても泥んこ道になり、イワカガミ平に出る直前まで続いた。 すっかり汚れた靴やスパッツをレストハウス入口の水道で綺麗にし、シャトルバスに乗ると、車窓からの景色は午後のやわらかな光に照らされて、朝よりいっそう艶やかになっていた。

途中、遠刈田温泉の『壽の湯』(こじんまりとした掛け流しの温泉で、さらりとしたお湯は気持ちよかったが何しろ熱く30秒も浸かっていられなかった)で汗を流し、17時前に集合場所の蔵王自然の家に到着。夕食後は交流会になった。



主催した宮城県連を始め、被災された会員も多数参加し、被害状況や現状、山に行ける喜びなどを話しておられた。 4月に大槌町に行った時お世話になった、釜石労山のKさんにもお会いし、あの時津波で足を怪我して避難所にいた若い会員の方が職場復帰されたと聞き、ほっとした。主催者の「我々登山者は困難な事態に陥っても、地道に楽天的に生きる知恵と術を山で鍛えられ、身につけています。そして全国の仲間からも大きな支援と励ましを頂き、復興、回復が前進しています。」という言葉からも、「山っていいなあ。山仲間っていいなあ。」との思いを強くした一日だった。